

潮音寺だより

第 253 号
平成 16 年 11 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11



十方世界 光明遍照

【出典】『観無量寿経』

この
小春日和
外に出て
陽を
浴びよう
体いっぱいに
暖かさが
広がってくる
そして
念仏という
仏門の
扉を開け
弥陀仏の
慈悲の光を
心いっぱい
浴びよう

山伏と大統領

ブッシュ現大統領とケリー上院議員による、次期大統領選の行方はどうなるのでしょうか。全国遊説やテレビ討論会など、文字通り激烈な選挙戦が繰り広げられております。今や、世界を動かす権力を与えられる人を選ぶ訳ですから、それはそれは大変なことであります。しかし、その演説を聞いてみると、遠く海を越えて、テレビを通して見るからでしょうか、どうも、しつくりいたしません。ふと、一休禅師のエピソードを思い出しました。

一休が、堺へ行った折のことで、淀の河瀬舟に乗り、たまたま乗り合わせた客に、「山伏がいて、一休に、「御僧は何宗ですか?」と聞

いてきました。

一休が、「禅宗です」と答えば、「禅宗には、我らのような奇特(ふしぎな)しるし)はないでしょう」と得意気に言いました。

一休は、「いかにも、あなた方には奇特は多いですね。あなたにも何か奇特な力があれば見せて下さい」と言いました。

山伏は、「では、我らの法力で、この舟の舳先に不動明王を祈り出して御目(まなこ)にかけよう」と言って、数珠(ずしゆ)をさかんにもんで祈ると、乗り合わせた客たちが目を見合わせている舟の舳先に、たちまち不動明王の像が火焰(くわん)を放って現れました。そして、山伏は淡面(たんめん)を作って、「皆々、拜んでおられるか?」と言えは、皆々は不思議に思い、あつげにとられていたが、一休は少し

も不思議に思わない様子で平然としています。

さて禅僧、「どのような奇特にはどうなさるか」と急ぎたてて言えは、「我らの奇特は、身体から水を出して、あの火焰を放つ不動明王を消して見せましょう。せいせい祈りたまえ」と言って、かの不動明王の像の火焰に小便をしたたか降り注ぎました。火焰は、たちまち消え失せて、山伏の法力が尽きたので、皆々は、一休を拜んで奇異の思いをしました。

その後、舟から下りて、陸路を同行しているところに、向こうから、いかにも大きな犬が、山河に響くばかりの大声で吠えかかってきました。

山伏は、「いかに御坊、先ほどの修行では私が負けたが、あの犬の

怒りを鎮めて、こちらに呼び寄せ
る法力を見せようと思うが、御坊
は「どうするか?」と言いました。

一休は、「これはとても簡単なこ
とである。そなたが先に祈ってみ
て下さい。もし来なかつたら、私
に任せなさい」と言いました。

山伏は、大きな赤い数珠を押し
もんで、一心に祈ったが、いつこ
うに吠え止まず、手元に来る気配
もありません。縦や横の方向に指
で十文字切り、「犬の喉を止めよ。
阿毘羅吽欠蘇婆訶、阿毘羅吽欠蘇
婆訶」と呪文を唱えても、犬は相
変わらず吠え続けています。

一休がおかしく思つて、「そこを
お退きなさい。」おれ程の「ごに、ア
ビロも、ウンケンも、ソワカもい
ることではない。あの犬の怒りを
止め、たちまちここへ来させてし

んぜよう」と、懐から昼飯の残り
の握り飯を取り出し、その犬に一
目見せて、「コロコロと転がしまし
た。すると、あれほど怒っていた
犬ではあつたが、握り飯を一目見
てから、クワンと尻尾を振つて
やつて来たので、山伏もあつけに
取られてしまいました。皆々は、さ
ても格別な心の持ち主だと、感心
して帰っていきました。

.....

さて、このエピソードに出てく
る山伏の言動は、二人の大統領候
補に似ているように思えてなりま
せん。

どちらも、「自分の法力こそ優れ
ている」と、**口角泡**を飛ばし言い
合つていますが、どつちもどつち
幻の不動明王の火焰に惑わされて
いると同じに、強力な武器の幻影

に酔っているとしか思われませ
ん。ムア監督の『華氏91』もい
ですが、さしずめ、ローマ法王
あたりが、核弾頭の起爆装置に小
便を掛けて平和が訪れる、といっ
た映画を、北野監督に作つてもら
たいものです。

また、イラクを犬にたとえては
誠に申し訳ないですが、吠え続け
ています。あれほど自信満々だつ
た、米大統領の法力は、いまだ通
じていないようです。法力も武力
も無用、腹を満たす糧さえあれば
よいといつことでしょう。

「茶化してはいけない」とお叱
りを受けるかもしれませんが。しか
し、笑いの中に、案外、真実はあ
るものです。指導者を自負するよ
うな人には、それを解せる人であ
つてほしいものです。

真言 しんごん

サンスクリット語のマントラを訳したもので、「真言」のほかに「真呪」「密呪」「密言」なども訳されます。

文字通り、真実で偽りのない言葉という意味ですが、古代インドでは、神や鬼に対して発する神聖な語句とされ、すでに『ヴェーダ聖典』などにも記されています。

後代密教が盛んになると、真言は「身密・口密・意密」の三密のなかの口密にあたることされ、即身成仏のための重要な呪文として、中国・日本でも現代にいたるまでその意味は翻訳せず、原語を音写して唱えのまじりになっています。いわば、言葉自体に神秘的な力


が宿るという言霊信仰に似ている

といつてよいかもしれません。

例えば、『不空羂索毘盧遮那仏

住職通信

忙しい 忙しい
それは頭の中だけで
念仏せよ
呼吸をととのえよ



灌頂光明真言音録』には、光明真言を聞いた者のすべての罪を滅し、また光明真言を唱えながら土砂に祈願を込めて

その土砂を遺体とか墓に撒けば、死者は極楽浄土に生まれることができることも説かれています。

この光明真言は少し長いので、ここでは、短い真言を一つご紹介しましょう。「オンケンパヤケンバヤソワカ」……何の真言だと思われませんか？じつは「荒神真言」といって、離婚を成就させる真言です。(ひろそちや『仏教の百科』)

雑記

▼表紙

多くの方々のご寄付を賜り完成した彩色灯明(曼荼羅燈)が、無事、ご本尊前に納まりました。写真のとおり、極彩色で、見事なできればであります。本当に、有り難うございました。感謝申し上げます。



▼本山秋の寺宝展

- ・11月1日(月)～11月30日(火)
- ・午前8時30分～午後4時
- ・夜の特別拝観(ライトアップ)は、11月8日(月)～11月30日(火)
- ・午後5時30分～午後9時
- ・もみじの名利(名刺)永観堂の寺宝が、多数展観されます。

▼落し葉踏む

土柔らかし五十六 沐魚